

補修技術設計「クラック・イメージャー」

インフラ施設の補修設

計や点検調査を専門とする補修技術設計（東京都

江戸川区、中馬勝二社長）

は、デジタルカメラで撮影した画像からコンクリ

ートのひび割れ図を作成し構造物の劣化状態を判定するシステム「クラック・イメージャー」を開発した。

デジタルカメラで撮影したコンクリート構造物の表面画像を、ひび割れが判別



デジタルカメラ画像でひび割れ図作成

とで2点間の距離やトレス長、面積などを計算する。計算データをそのままエクセルファイルにダウンロードすることも可能だ。

しやすいう加工修正し、ひび割れを見つけ出すもの。画像の明るさやコントラスト、色相などの画質調整に加え、斜め方向から撮った画像を正面画像に変換できる。正射投影変換機能など独自の画像処理でひび割れの特徴を的確に抽出し損傷部の正確な確認・判定を可能にする。

部分撮影した画像を合成して全体画像を作成す

る合成機能も充実している。重複部が2つある画像の共通点を指定して合成する2点合成機能、複数画像に座標値を設定して合成する座標合成機能、フォルダに格納された複数画像の共通部を認識し合成するフォルダ合成機能などだ。

ひび割れのトレスや計測もコンピューター上で簡単にできる。画像上にXY座標を設定するこ

また、作成した損傷スケッチ図は画像ファイル（JPEG、ビットマップ形式）として保存できる上、DXF形式に変換する機能によってCADソフトでの編集も可能となる。

赤外線カメラのデータとの複合的な診断処理など、要望に応じて各種のカスタマイズにも対応する。価格は1セット45万円。

